



吉内占

東方朔秘傳



東方朔秘傳置文序

一日客わりの從容として予が亦人東方朔置文を
その書とみせり清て是と因り所其其との
予の所しや有賢法命を心か似るる或は是を
四時か此一或は是と日月かは是は漢湯明
其變と見ゆ由末由法をく一天文地理其象
と事て得た代さるるひ不傳の所る所々を接紙
現ひ動河の其兵代現ふは是の百世日く
亦月心河の耕業とあす其利あり高家常か
然ふ河の事と安しき心か使わすすといふ

其の... 其の... 其の... 其の... 其の...
 蓋是后の人翔と言一旬れ...
 深く... 深く... 深く... 深く... 深く...
 推... 推... 推... 推... 推...
 其... 其... 其... 其... 其...
 ... 其... 其... 其... 其...

于時貞享甲子夏

攝陽入窓軒考之

東方朔秘傳置文をこ目錄

卷上二

第一六十甲子をぬの

卷上三

- 第一 日輪と候てをぬの
- 第二 月輪と候てをぬの
- 第三 早と候てをぬの
- 第四 雲氣と見て年のをぬの
- 第五 虹と候てをぬの
- 第六 電光と見てぬ凡と候ぬの
- 第七 雲氣と見てぬ凡と候ぬの

卷上三

第九の年あり四月ありあり晴るなり
第十の年定て凡ゆるありありなり
第十一年物氣と見てありありなり
第十二四季の氣と見てありありなり
附火氣と物氣なり
第十三軍中子や物氣の氣と入てありありなり
第十四五の氣と見てありありなり

東方朔秘傳置文目錄甲

東方朔秘傳置文をを上一

六十甲子を画之奉

○甲子の年ハ三月三月あり四月六月澤水あり

六月七月旱八月あり雷あり九月十月風あり

田畠大母あり一麦あり一蠶を盗人あり

火ありあり一しひあり一万物このありあり

年あり

○乙丑の年ハ五月あり六月牛馬死也方及亂

八月十月ありあり麻糸あり一教あり一八月

病多くくもば又冬の氣より大あり。又
冬もあきて大あり。七月大も寒也

○丙寅の年ハあがり。田畠より。稲一。二月

日月毎あり。日月毎あり。六月七月毎

風あり。秋もや。冬もや。十月盗人あり

口舌の多し。又夏熱病もや。正月青

大も家也

○丁卯の年ハ五穀より。冬夜病もや。正月

二月あり。四月病もや。五月六月あり

七月風あり。冬より。冬あり。冬あり。冬あり

大も家也

○戊辰の年ハ夏大豆小豆あり。いと綿より。田

畠もよ。冬もよ。冬もよ。冬もよ。冬もよ

四月五月大もあり。七月八月大風あり。九月

十月毎あり。十一月寒也。盗人多し

○巳巳の年ハ正月二月毎あり。夏雨一。七月分

あり。又上田熱し。下田冷し。八月も荒

あり。夏也。秋の多。冬もつ。冬もつ

○ 庚午の年ハ云々（unreadable） 且敷（unreadable） 且敷（unreadable） 且敷（unreadable）

○ 二月に月ぬあり三月に月ぬあり又六月に月ぬあり又八月に月ぬあり又雷多し九月十月草木（unreadable）

十一月十二月大寒（unreadable） 十二月（unreadable）

○ 辛未の年ハ田（unreadable） 大夏（unreadable） 大夏（unreadable） 大夏（unreadable）

○ 壬申の年ハ五穀（unreadable） 大夏（unreadable） 大夏（unreadable） 大夏（unreadable）

○ 癸酉の年ハ水（unreadable） 水（unreadable） 水（unreadable） 水（unreadable）

○ 甲戌の年ハ水（unreadable） 水（unreadable） 水（unreadable） 水（unreadable）

○ 乙亥の年ハ水（unreadable） 水（unreadable） 水（unreadable） 水（unreadable）

○ 丙子の年ハ水（unreadable） 水（unreadable） 水（unreadable） 水（unreadable）

分月十月より多く寒くはる二月三月母家
交々吹あり

○甲戌の年八月三月三月水あり凡熱の病を治すと

あり十一月五月あり七月八月あり

十月十月寒くはる五月あり上田下田より

ふこすもはる五月ありとあり

○乙亥の年八月三月三月あり凡音交々治あり

あり十一月六月日早あり七月八月あり九月

十月あり冬風ありとあり

多下高貴人地行多死もつとあり

○丙子の年八月十月寒くはる三月あり

あり四月五月あり七月澤水八月九月あり

あり十月あり十一月十二月霜多あり

あり一月あり二月あり三月あり

あり四月あり五月あり六月あり

○丁丑の年八月三月三月あり牛馬あり

あり四月あり五月あり六月七月あり

あり八月あり九月あり十月あり

その乳小ありて寒^さくはありて水^{みづ}の

○戊寅の年ハ和^まの^と 冬^{ふゆ}の乳^うありて水^{みづ}ありて

熱^{あつ}物^{もの}ありて三月^{しがつ}四月^{しがつ}日^ひ早^{はや}くはありて六月^{ろくがつ}七月^{しちがつ}

病^{やまひ}ありて七月^{しちがつ}八月^{はちがつ}大^{おほ}風^{かぜ}吹^ふくはありて九月^{くわがつ}十月^{じゅうがつ}

ありて教^{しやく}ありて桑^{くわ}ありて麦^{むぎ}ありて

○巳卯の年ハ二月^{にがつ}三月^{しがつ}四月^{しがつ}五月^{ごがつ}六月^{ろくがつ}七月^{しちがつ}八月^{はちがつ}九月^{くわがつ}十月^{じゅうがつ}

病^{やまひ}ありて九月^{くわがつ}十月^{じゅうがつ}大^{おほ}風^{かぜ}吹^ふくはありて

ありて草^{くさ}木^きありて水^{みづ}ありて

二月^{にがつ}三月^{しがつ}四月^{しがつ}五月^{ごがつ}六月^{ろくがつ}七月^{しちがつ}八月^{はちがつ}九月^{くわがつ}十月^{じゅうがつ}

病^{やまひ}ありて九月^{くわがつ}十月^{じゅうがつ}大^{おほ}風^{かぜ}吹^ふくはありて

ありて草^{くさ}木^きありて水^{みづ}ありて

○庚辰の年ハ二月^{にがつ}三月^{しがつ}四月^{しがつ}五月^{ごがつ}六月^{ろくがつ}七月^{しちがつ}八月^{はちがつ}九月^{くわがつ}十月^{じゅうがつ}

病^{やまひ}ありて九月^{くわがつ}十月^{じゅうがつ}大^{おほ}風^{かぜ}吹^ふくはありて

ありて草^{くさ}木^きありて水^{みづ}ありて

○辛巳の年ハ二月^{にがつ}三月^{しがつ}四月^{しがつ}五月^{ごがつ}六月^{ろくがつ}七月^{しちがつ}八月^{はちがつ}九月^{くわがつ}十月^{じゅうがつ}

病^{やまひ}ありて九月^{くわがつ}十月^{じゅうがつ}大^{おほ}風^{かぜ}吹^ふくはありて

ありて草^{くさ}木^きありて水^{みづ}ありて

月あり又凡あり五月十月あり
月十二日ありてうらり夏より
ありてより

○壬午の年二月をてあり三月日早四
月ありあり水あり五月大熱して凡夜有人
死して七月八月あり九月十日あり十月
十一日大熱をてありては夏の敷もあり

○癸未の年二月あり三月あり四月あり五月あり六月あり七月あり八月あり九月あり十月あり十一月あり十二月あり
正月あり二月あり三月あり四月あり五月あり六月あり七月あり八月あり九月あり十月あり十一月あり十二月あり
正月あり二月あり三月あり四月あり五月あり六月あり七月あり八月あり九月あり十月あり十一月あり十二月あり

○甲申の年二月あり三月あり四月あり五月あり六月あり七月あり八月あり九月あり十月あり十一月あり十二月あり
正月あり二月あり三月あり四月あり五月あり六月あり七月あり八月あり九月あり十月あり十一月あり十二月あり

○乙酉の年二月あり三月あり四月あり五月あり六月あり七月あり八月あり九月あり十月あり十一月あり十二月あり
正月あり二月あり三月あり四月あり五月あり六月あり七月あり八月あり九月あり十月あり十一月あり十二月あり

八月風あり九月十月風あり十一月十二月
あり三月四月五月六月七月八月九月十月十一月十二月

○丙戌の年二月三月四月五月六月七月八月九月十月十一月十二月

月あり四月五月六月七月八月九月十月十一月十二月

十月十一月十二月

と田下田すまふことなる

○丁亥の年二月三月四月五月六月七月八月九月十月十一月十二月

四月五月六月七月八月九月十月十一月十二月

九月十月十一月十二月

み穀を麦熟し一ちけ田より糸糸の穀をさ回す

○戊子の年二月三月四月五月六月七月八月九月十月十一月十二月

六月七月八月九月十月十一月十二月

十二月三月四月五月六月七月八月九月十月十一月十二月

春小麦大麥より一ふこと

○己丑の年二月三月四月五月六月七月八月九月十月十一月十二月

又秋作物なるは六月七月八月九月十月十一月十二月

あり十二月

明麻をいりてなまきり

六月廿五日... 七月廿八日...

八月廿九日... 九月廿一日...

十月廿三日... 十一月廿五日...

十二月廿七日... 乙未の年...

丙申の年... 丁酉の年...

戊戌の年... 己亥の年...

庚子の年... 辛丑の年...

壬寅の年... 癸卯の年...

甲辰の年... 乙巳の年...

丙午の年... 丁未の年...

戊申の年... 己酉の年...

庚戌の年... 辛亥の年...

壬子の年... 癸丑の年...

甲寅の年... 乙卯の年...

丙辰の年... 丁巳の年...

戊午の年... 己未の年...

庚申の年... 辛酉の年...

壬戌の年... 癸亥の年...

甲子の年... 乙丑の年...

氣ひして... 正月... 二月... 三月... 四月...
 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
 一四... 一五... 一六... 一七... 一八... 一九... 二〇... 二一... 二二... 二三... 二四... 二五... 二六... 二七... 二八... 二九... 三十...

○ 庚子の年

一月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

○ 辛丑の年

一月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

○ 壬寅の年

一月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

○ 癸卯の年

一月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

○四月ぬぬり五月六月七月熱して暑氣なり
 ろく又ぬぬり七月八月九月凡のぬぬり
 十月熱し十一月十二月凡のぬぬり
 凡のぬぬり
 ○養正の年三月三月ぬぬり四月五月六
 月熱して暑病なり七月七月ぬぬり
 八月九月ぬぬり十月凡のぬぬり
 十一月十二月ぬぬり
 ぬぬり
 ○甲辰の年二月三月ぬぬり四月五月六月
 七月八月九月十月凡のぬぬり
 十一月十二月ぬぬり
 ぬぬり
 ○乙巳の年二月三月四月凡のぬぬり五月六月七月
 八月九月十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○丙午の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○丁未の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり

○甲辰の年二月三月ぬぬり四月五月六月
 七月八月九月十月凡のぬぬり
 十一月十二月ぬぬり
 ぬぬり
 ○乙巳の年二月三月四月凡のぬぬり五月六月七月
 八月九月十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○丙午の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○丁未の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○戊申の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○己酉の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○庚戌の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○辛亥の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○壬戌の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○癸亥の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○甲子の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○乙丑の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○丙寅の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○丁卯の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○戊辰の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○己巳の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○庚午の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○辛未の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○壬申の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○癸酉の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○甲戌の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり
 ○乙亥の年二月三月四月五月六月七月八月九月
 十月十一月十二月凡のぬぬり
 ぬぬり

あつらひあり十月毎あり十一月二月あり

うめりてあり十月すまあり十一月あり

二月あり三月あり四月あり五月あり六月あり

七月あり八月あり九月あり十月あり十一月あり

十二月あり正月あり二月あり三月あり四月あり

五月あり六月あり七月あり八月あり九月あり

十月あり十一月あり十二月あり正月あり二月あり

三月あり四月あり五月あり六月あり七月あり

八月あり九月あり十月あり十一月あり十二月あり

正月あり二月あり三月あり四月あり五月あり

六月あり七月あり八月あり九月あり十月あり

十一月あり十二月あり正月あり二月あり三月あり

四月あり五月あり六月あり七月あり八月あり

九月あり十月あり十一月あり十二月あり正月あり

二月あり三月あり四月あり五月あり六月あり

七月あり八月あり九月あり十月あり十一月あり

十二月あり正月あり二月あり三月あり四月あり

五月あり六月あり七月あり八月あり九月あり

十月あり十一月あり十二月あり正月あり二月あり

○戊申の年八月懸風ありて八月やあは

るいなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

いそなるいそなるいそなるいそなるいそなるいそなる

三月あり四月あり五月あり六月あり
七月あり八月あり九月あり十月あり
十一月あり十二月あり
○巳酉の年六月あり七月あり八月あり
九月あり十月あり十一月あり十二月あり
○巳酉の年六月あり七月あり八月あり
九月あり十月あり十一月あり十二月あり

○庚戌の年六月あり七月あり八月あり
九月あり十月あり十一月あり十二月あり
○庚戌の年六月あり七月あり八月あり
九月あり十月あり十一月あり十二月あり

十月十二日大母うんざびの敷り〜田島いんざの長
うのこもた麻糸あさひうのるのり〜

○甲寅の年きのとの二月三月熱風ありて人ぞおぢる

四月日早ひさ大母〜てあうらうらり五月あま

あり六月あまの熱あつ〜て草木くさきわう〜七月あまの

分ぶんぬあり五月あり十月あま盗賊たうさくわが〜十月

あぐんざびあぐんざび十二月あま風あり田島いんざより〜

ぬ敷ぬり〜麦日あま〜大夏あま水みづ〜

○乙卯の年きのとの二月三月ぬ風あり四月あま日早ひさ

五月あり六月あま風あり七月あま風あり八月あま月

ぬありてあま〜いもあま十月あまぬ風あり十月

日早ひさ十一月あまぬ〜人ぞおぢる

○丙辰の年きのとの二月あまぬ風あり三月あま日早ひさ四月

あり五月あまぬあり六月あまぬ〜七月あま風

あり八月あまぬあり九月あま日早ひさ十月あま温風あまあり

て人ぞおぢる十一月あま大母うんざびあま〜

十二月あまぬ〜あうらうらり〜

〜人ぞおぢる田島いんざもあまぬ敷あま大母あま〜

のるのうゝ給はるをまゐりて又祭りのしは
 ○庚申の年こうしん二月ふたつき熱あつ風かぜありて人々ひとびともがりの三朔
 ありて四月よんつきありて風かぜあり六月むつきあり
 水みづも六月むつきありて暑あつまこととづく
 うゝ七月しちつき日ひ早はや八月はちつき風かぜありて暑あつなり
 九月くつき十月じゆつきありて暑あつなり十一月じゆんごつきありて
 ありて風かぜありて暑あつなり十二月じふごつきありて暑あつなり
 うゝありて暑あつなり

○辛酉の年しんゆう二月ふたつき三月さんつきありて暑あつなり四月よんつき
 ありて暑あつなり五月ごつきありて暑あつなり六月むつきありて暑あつなり
 七月しちつきありて暑あつなり八月はちつきありて暑あつなり
 九月くつきありて暑あつなり十月じゆつきありて暑あつなり
 十一月じゆんごつきありて暑あつなり十二月じふごつきありて暑あつなり
 ありて暑あつなり

○壬戌の年にんじゆ二月ふたつき三月さんつきありて暑あつなり四月よんつきありて暑あつなり
 五月ごつきありて暑あつなり六月むつきありて暑あつなり七月しちつきありて暑あつなり
 八月はちつきありて暑あつなり九月くつきありて暑あつなり十月じゆつきありて暑あつなり
 十一月じゆんごつきありて暑あつなり十二月じふごつきありて暑あつなり

蹟

書

十一

大母ありしきこゆふ七月凡あり六月あり凡
 あり五月早しは十月凡ありて凡あり
 六月七月大母ありしは凡ありて凡あり
うのよめ
 ○天香の年六月三月凡あり凡あり四月
 あり六月早し七月大母あり七月日
 八月日早しあり九月凡あり十月あり
 十一月十二月大母ありて凡あり
 ありありしは凡ありて凡あり
 人のり大母ありて凡ありて凡あり

○右六十年の凡ありて凡あり又日月早しは凡
 あり凡あり電の凡ありの凡あり凡あり
 凡あり元日の凡ありと凡あり凡あり凡あり
 ありありしは凡ありて凡ありて凡あり
 ありありしは凡ありて凡ありて凡あり

東方朔秘傳四直文卷上一終

○み也のををびて日とのせうげはるは是より
下なる敷成就（きりかた）下相（かた）つるありて及お母
さるおはるうしとるすし

○目のらうとことあ母をのちらふお母あり
てまらるは夜洋（やうやう）をまらうく下國家らあ
たのうあしして海（うみ）のあうらりてあて
眼端（まなこ）をあらとるすし

○目あて火燭（かろう）のことくあう氣よあのをあゆ
めりはとあ目干（めくら）あはるあを氣のこころあ
のこころあて目とつあはるあをあはるあ
あ又あらとるああし口あて光（ひかり）あくああり

あくあのことくあはる國（くに）凱（かゐ）陣（じん）ありとるあ
○目のす（ま）おま（ま）くす（ま）あはるあはるあはるあ
人（ひと）民（たみ）多（おほ）るあはるあはるあはるあはるあ
あ又あお母らとるあはるあはるあはるあ

○目うらあて一あ母とあはるあはるあはるあ
ことあはるあはるあはるあはるあはるあ

○目と月と一あ母あて目とてあ月のあ

○まり入るあは果ちあめあひじー秦の
子嬰しんの特右のごとくあめりーとあり

○白ふちあめり日とつぬけはあー了
死せはつぬたささる死せはさるわ
目の下あめりあめりあめりあめり
又んあめりあめりあめりあめり
ありとちるへー又んあめりあめり

○目のまへ一まへふあめりあめり
はあめりあめりあめりあめり
あめりあめりあめりあめり

○目の色らるく光あめりあめりあめり
とくあめりあめりあめりあめり
目のうらあめりあめりあめり

○目のあめりあめりあめりあめり
凡うへー申のあめりあめりあめり
あめりあめりあめりあめりあめり

○目のあめりあめりあめりあめり
あめりあめりあめりあめりあめり
あめりあめりあめりあめりあめり

日母つゝあるは水たう午の時な母を
は風きつあり

○日の暈あゝ母ゆく善母あゝは元
とあゝとあゝせ石とこゝりあり

○日の入母くろく赤と日の又あゝはあゝ
風ありとあゝ

○朔日ありトてととこゝは凡次あり朔日
比ヤヤハああうとあゝ

○日のひりてはあゝも凡次とあゝ
月輪と作てあゝ

○月日の中母ありて東方母とあゝ下園
を平の場とあゝ

○月のあゝつらあゝ海月とあゝはあゝ
よつららな月虧へとあゝ海月

あゝあゝ平日のつら母とあゝとあゝ
みつ日よりの東の月海とあゝ日早とあゝ
月母四角とあゝ暈あゝは國中乳後とあゝ
母多死とあゝの暈色とあゝはとあゝ

人の母をへばとて

○月のつらき母をへばとては氣障あり又
る凡あり母をへばとては氣障ありとて
は母をへばとては氣障ありとては氣障あり
國をへばとては氣障ありとては氣障あり

○月蝕母をへばとては氣障ありとては氣障あり
あつて母をへばとては氣障ありとては氣障あり
母をへばとては氣障ありとては氣障あり
く母をへばとては氣障ありとては氣障あり

月のあつて母をへばとては氣障ありとては氣障あり
鼎の三足をへばとては氣障ありとては氣障あり
のつらき母をへばとては氣障ありとては氣障あり

○三月月の下母をへばとては氣障ありとては氣障あり
るあつて母をへばとては氣障ありとては氣障あり
とつらき母をへばとては氣障ありとては氣障あり

○月蝕十分ありて是星出る六十分の月をへば
月をへばとては氣障ありとては氣障あり
おつて母をへばとては氣障ありとては氣障あり

○月ありは春八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり

○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり
○月ありは八月ありとあり

るくはかみし一君とて仁あり候とて
忠ありておと母とらゆりとおと長し

○身守とらふがし一はらこまはがし一あつあつ

ひらら母又おとらるる一とまはききとを

づこまひ命下あし一おとらるる一

○妖星とらふがし一ひがし一天下災難あり

くまらるる一〇し一おとらるる一あつあつ

あつあつ一〇し一おとらるる一あつあつ

あつあつ一〇し一おとらるる一あつあつ

あつあつ一〇し一おとらるる一あつあつ

○三天皇びがし一東南おとらるる一三下あつあつ

て盗賊よもあつあつ一おとらるる一あつあつ

南のこまあつあつ一〇し一布のるる一三下の

あつあつ一〇し一東おとらるる一〇し一あつあつ

あつあつ一〇し一民飢あつあつ一〇し一あつあつ

あつあつ一〇し一あつあつ一〇し一あつあつ

○天狗星あつあつ一〇し一あつあつ一〇し一あつあつ

あつあつ一〇し一あつあつ一〇し一あつあつ

ひらりうらりてんまのりおめくもきあして

なごいさのこゝろにまもるゝまもるゝまもるゝ

○雲光(うんこう)のまへにまへにまへにまへにまへに

まへにまへにまへにまへにまへにまへに

ひらりあうくまのりおめくもきあして

あめすかりまのり

○天捨(あますて)のまへにまへにまへにまへにまへに

あめすかりまのり

あめすかりまのり

○六辨(むつべん)のまへにまへにまへにまへにまへに

あめすかりまのり

あめすかりまのり

あめすかりまのり

○月光(げっこう)のまへにまへにまへにまへにまへに

あめすかりまのり

あめすかりまのり

あめすかりまのり

○乳母(うちのめ)のまへにまへにまへにまへにまへに

あるす末をしまきつり

雲の光と見えて年の名をばす

○立夏の日の方母黄の気は雲の気めつて入敷の
この気は雲の気めつては雲の気めつて入敷の
久れまゝつりるも同く一気めつて入敷の
日早と云ふも一気はあり

○夏至の日の東の方母黄の気は雲の気めつて入敷の
入敷の気は雲の気めつては雲の気めつて入敷の
疲病を云ふも日晴ありて雲の気はあり

○立秋の日の東南の方母黄の気は雲の気めつて入敷の
入敷の気は雲の気めつては雲の気めつて入敷の
年と云ふも一気はあり

○秋分の日午の方母黄の気は雲の気めつて入敷の
入敷の気は雲の気めつては雲の気めつて入敷の
月も光るも一気はあり

○立冬の日申の方母黄の気は雲の気めつて入敷の
入敷の気は雲の気めつては雲の気めつて入敷の

のいざと地震あり牛馬とついでに死す
り母年れ正月とて母のいざと

○秋分の日日の入所あきぐんも母のいざと

まのいざと母のいざと

は霜しもありて人氏とついでに母年の

二月とて母のいざと

○きつめの目おれし母白く乳ありて結むすの

ごとく馬のいざと母のいざと

○よしと母年れいざとついでに乳な

はよしと母年れいざとついでに乳な

又人氏やん後病とついでに母年の胃月と母年

○冬至ふゆいの日水のうと母のいざとついでに母年

と母のいざとついでに母年のいざと

あつと乳ありて白早いそとついでに乳な

あり白しろく後病とついでに母年の乳は

空そらとついでに母年の乳は

母のいざとついでに母年のいざと

虹にじ見えてる事

○虹をておみあつのはお日さすびぬあつて
 東みまゆはぬあつてとてあつては風
 吹く一虹をていふまじりあつては風
 あつて一日言ふ東南北虹をたつてあつて
 凡そく一二月よあみ虹をたぬ敷さるまじ
 るあつて三月朔日北虹をたぬまじりあつて
 四月廿日北虹をたぬまじりあつて
 五月廿日北虹をたぬまじりあつて
 六月廿日北虹をたぬまじりあつて
 七月廿日北虹をたぬまじりあつて
 八月廿日北虹をたぬまじりあつて
 九月廿日北虹をたぬまじりあつて
 十月廿日北虹をたぬまじりあつて
 十一月廿日北虹をたぬまじりあつて
 十二月廿日北虹をたぬまじりあつて

電氣催風の事

○電ひらあむのうまゆはぬお日天氣は
 お水あつてあつてあつてあつてあつて
 いふひらあつてあつてあつてあつてあつて

凡そ...
—
—

○夏の凡は...
—
—

凡そ...
—
—

○夏の...
—
—

○夏の...
—
—

○夏の...
—
—

○夏の...
—
—

○夏の...
—
—

○夏の...
—
—

○夏の...
—
—

○水の...
—
—

聖氣と見て...
—
—

○秋の...
—
—

夏の...
—
—

夏の...
—
—

夏の...
—
—

夏の...
—
—

夏の...
—
—

あーん 秋のおもひは 秋のまのよと 母とどは
まよぬのちうーあり

○ 朔より 月あけの 初まが 月あけの
月あけの 月あけの 月あけの
とあけの 月あけの 月あけの
ぬまそへ 月あけの 月あけの
まよぬのちうーあり

○ あまのこゝろ 月あけの 月あけの 月あけの

あまのこゝろ 月あけの 月あけの 月あけの

あまのこゝろ 月あけの 月あけの 月あけの

あまのこゝろ 月あけの 月あけの 月あけの

○ 秋の 東 西の 月あけの 月あけの 月あけの

○ まよぬのち 月あけの 月あけの 月あけの

○ まよぬのち 月あけの 月あけの 月あけの

○ 秋の 西 東の 月あけの 月あけの 月あけの

○ まよぬのち 月あけの 月あけの 月あけの

○ その 月あけの 月あけの 月あけの

○夏と秋とのころは風ありてはるかに
 ぬれぬるありてはるかに
 ○夏と秋とのころは風ありてはるかに
 ぬれぬるありてはるかに
 ○夏と秋とのころは風ありてはるかに
 ぬれぬるありてはるかに
 ○夏と秋とのころは風ありてはるかに
 ぬれぬるありてはるかに
 ○夏と秋とのころは風ありてはるかに
 ぬれぬるありてはるかに

○夏と秋とのころは風ありてはるかに
 ぬれぬるありてはるかに
 ○夏と秋とのころは風ありてはるかに
 ぬれぬるありてはるかに
 ○夏と秋とのころは風ありてはるかに
 ぬれぬるありてはるかに
 ○夏と秋とのころは風ありてはるかに
 ぬれぬるありてはるかに

東方朔秘傳置文卷上三終

東才親秘傳置文卷上三

西海おと海母より海晴くことある

○申子^{まね}辰^{うら}の時^{とき}ありあすは西^{にし}あぐ^{あぐ}己酉^{こし}の

時^{とき}ありあすは日^ひ晴^はく^くなり寅^{とら}年^{ねん}戌^{しゆ}の時^{とき}

ありあすは日^ひ晴^はく^くなり寅^{とら}卯^う未^みの時^{とき}

ありあすは日^ひ晴^はく^くなり

○寅卯^{とらう}の時^{とき}寅卯^{とらう}の^の己酉^{こし}の^の事^{こと}ごとくあり白^{しろ}き

みる事^{こと}きたるあひく甲^{こう}己^この^の日^ひを^をあらず西^{にし}あぐ

辰^{しん}己^この時^{とき}辰^{しん}己^この^の事^{こと}ごとくあり

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

は丙丁の日ぬり年未の時年未のうらみ白
ちるまをありて日とありありつらのつらの
との日ぬり又旺相の日ぬり年未の時
あひうすあり

○雪ふりまそいそやふはた風をまはあり
○虹をてはらん中いそくうあつ俄か風又
ちぬりあへ

○ぬのあつとぬりあつて陰風をまはあり
あつては湯風をまはあり

○漢戸朝ちるまはうあつていむあり漢月
母のあつてはた風をまは漢の月か代々母
ちるまてはれせよ湯の月か巳年かち
ちて風をまは漢の月かぬれのち風をま
陽の月かぬれのちぬれをまは漢の月湯の
風かへーくす湯の月漢の風かへー
くすくちるま
○三方かちるまてうらみおのちるまあり
てうらみは陰陽の風をまはあり

漢文

漢文

○三月四月の月申はよまて日早六月七月は
 比まて日早はあは言の塩多し大夏うらつは
 富作りともたうし油と海六月の日早あは
 十分あり大夏ありとありあはれと用家す
 ばしつよけも六月の土用日早あり六月
 土用みあはまて六月の土用み日早とあは
 節分式百十日日ぬららそとみ大風大
 海あははは多かれ湯氣うつりあはれあ
 毎月あり

○三月の霜ありそこのらあはすあうあり
 毎月定て凡あはれあは日のみす

○正月一日廿二日午の時凡あはれあはけもあは
 二月九日十一日廿四日ひらあはれあは三月
 三月十七日廿七日午の時後あはれあり四月八日
 十一日廿三日午の時あはれあり五月十三日廿七日
 廿七日あはあはれあり六月十八日廿九日
 辰れ河凡あは七月七日廿八日午の時
 凡あはあり八月三日廿七日廿七日あはあり

二月十一日十七日十九日毎風あり十月十一日
十八日十九日廿七日卯の時毎風あり十一月
一日二日十九日毎風あり十二月二日卯八日
廿三日廿八日毎風あり

○八月のうら母甲寅乙卯の日ありふらまはす
風あり

煙氣と見えて音あり

○物乞の立花のころあり
○東木のびくはちあり

○あまのびくはちあり
のちあり
あり
あり
あり

○あまのびくはちあり
あまのびくはちあり
あまのびくはちあり
あまのびくはちあり
あまのびくはちあり

うつく見を

○死氣とつる行湯とまらぬくつりのやば

るのくたぢまあつるは必死氣あり

○病の氣とつる大瘰癧とつるまののやば

ありつるまの病入あり

○家の棟母とつるつてつるつる病の氣

あり又棟よりつるつるつるつてつる

あつてつる氣あり

○年の暗家の棟とつるつるつるつるつる

の肉母逆心の者ありとつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつる

○物氣死火の松母あつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつる

氣ありとつるつる

軍中母とつるつるつるつるつる

○敵軍の氣材木のつるつるつるつるつる

長氣とつるつるつるつるつるつる

氣向の光のつるつるつるつるつる

○ 氣をよして白化するあり候氣と名づく
 のそむとらぬ軍必ち利とぬへし
 ○ 氣凡そまじればとらぬの光のとくしと
 凡そあつては敵を白日の多敵必ら
 づといふありは是の氣あり

○ 敵の思氣白して構のとくいとまらぬ
 又氣をまじらば敵兵強うへびと氣を
 つくるとありは是の勝へし

○ 敵軍のうまをまじらばとらぬ
 まらぬまじらば敵軍の勝へし
 ○ 遠くまらぬ軍との重く敵のつとふと
 面白くありは是の道のたけ
 ありははへし

○ 軍營のうまをまじらばとらぬ
 つとありは是の守備の氣あり
 面白くありは是の守備の氣あり
 まらぬまじらば敵軍のつとらぬ
 遠くまらぬ軍との重く敵のつとふと

はせじくくひ秋よ一母あははちかたあり

○城の氣のよみ青相^{あいらん}を東^{あいらん}へあひいへてあまあ
てま^{あいらん}東^{あいらん}のほろろあひれりあひあひ

○城中のひらり律ありてあよとあひあはき
城とせじくくひ

○城の氣を^{あいらん}氣めあひらてまき花のひ
けらりきくあひはきえはのなまはあ
あそらあひのあまあひ

○城の氣を^{あいらん}あひあひあひあひあひあひあひあひ
あははせじくくひはきえはの守^{あいらん}護^{あいらん}とあひ
くくくあひあひ

○城のよみ^{あいらん}守^{あいらん}護^{あいらん}のうらあひらあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
城^{あいらん}中^{あいらん}くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

○城中^{あいらん}うらあひらあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
うらあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

病多きを治るは

○ 喉中より黒煙の氣を吐いて

母を治るは邪氣を母を治るは

○ 氣のこられ津液を吐いて

氣を吐いては三日のうちに

軍の上の氣を吐いて

すべからずと氣を吐いて

○ 飲むの氣を吐いて

火を精澤とせよとあり

ものあり

○ 飲むの氣を吐いて

ついでくして

○ 氣のこられ

○ 氣のこられ

○ 氣のこられ

○ 氣のこられ

○ 氣のこられ

○ 氣のこられ

○ 氣のこられ

のしほくは 砲とがらめびん 火氣をて 樓に
しほくありはろたありは 猛氣といふまは
守備の氣あり

○城の上 亂火槍のごとく 立おありふまへ
軍兵合戦めいしあり

○城の上の 亂棒のごとく 城申うりお
てその内の 軍兵突も 城とみあはる
恵如のごとく といふは いくさみせむ
と 城をへし 人は 別備 三の 具助の 氣也

○城の上 乱火槍のごとく 立おありふまへ
城の上の 亂棒のごとく 城申うりお
てその内の 軍兵突も 城とみあはる
恵如のごとく といふは いくさみせむ
と 城をへし 人は 別備 三の 具助の 氣也

○城の上 乱火槍のごとく 立おありふまへ
城の上の 亂棒のごとく 城申うりお
てその内の 軍兵突も 城とみあはる
恵如のごとく といふは いくさみせむ
と 城をへし 人は 別備 三の 具助の 氣也

○城の上の 旗 亂火槍の 旗のごとく 立おあり
ていしこの 上 城の 氣とら 城の上 旗

あしき氣あり

○氣とつよまきとつよまき氣あり双調
ありその氣のくまらひゆきまきくまらひの
まて竹の子ぬきあひびくあつこ
きと氣とつよまきとつよまき氣ありとまきし
○微氣とつよまきとつよまき氣あり其體
ありその氣のくまらひゆきまきくまらひの
ごとしきとつよまきとつよまき氣あり
きと微氣とつよまき中の氣あり

○氣とつよまきとつよまき氣あり盤法
あり其氣のくまらひゆきまきくまらひの
はまきとつよまきとつよまき氣あり
くまらひゆきまきとつよまき氣あり
氣あり

○右五氣の字あり
氣の氣の字あり
氣の字あり
氣の字あり

女流の花のうらみのあつらひのあはれなりとぞ思ふ
 知りて未^{いづれ}巻^{まき}み^みのうらみあり

貞享三^{丙寅} 歲二月廿一日

心御堂前

撰^と及^び 書^き林^{りん} 森田左^さ太郎^{たろう}板^{いた}

東方初秘傳置文巻上三終

本村田之具康板

九太

下^{した}子^こ又^{また}之^の

K01
 445 511 50

